平成 22 年度中間決算報告書

80. Love 40th
TOKYO FM

株式会社エフエム東京

平成 22 年 11 月 30 日

報道各位

株式会社エフエム東京

平成 22 年度中間業績の概況

当中間連結会計期間におけるわが国経済は、世界経済の緩やかな回復や各種経済対策による政策効果を背景に、企業収益の改善や個人消費の持ち直しの動きが見られたものの、雇用・所得環境は依然として厳しく、海外の景気減速や円高等の懸念材料により景気の先行きへの不透明感が拭い切れないまま推移しました。このため、広告市場においては、テレビのスポット等一部に回復の兆しは見られましたが、企業の広告出稿に対する姿勢には依然慎重なものがあり、当社グループにとって厳しい経営環境が続きました。

このような状況の中、当中間連結会計期間の当社グループの売上高は 87 億９千７百万円（前年同期比 16.0%減）、営業利益は２億３千２百万円（前年同期比 48.8%減）、経常利益は２億２千３百万円（前年同期比 47.4%減）、中間純利益は２億６千８百万円（前年同期比 36.7%減）となりました。

当社単体の業績につきましては、売上高が 62 億 3 百万円（前年同期比 8.3%減）、営業利益が１億４千７百万円（前年同期比 60.3%減）、経常利益は１億 6 千 5 百万円（前年同期比 51.0%減）、中間純利益は２億３千１百万円（前年同期比 28.9%減）となりました。

連結事業セグメント別の営業状況は以下のとおりです。

〈放送事業活動〉

FM 放送事業においては、本年４月 26 日に開局 40 周年を迎え、新たな歴史を刻む節目の幕開けとなる４月の番組改編において、平日ワイドプログラムを中心とした大規模な番組改編を行いました。目指したのは「新しい発見と共感性」のある番組編成であり、それを実現できる個性的なパーソナリティを新たに起用しました。平日ランチタイムにはシンガーソングライター“LOVE（ラブ）”をパーソナリティに起用し、アーティストならではの視点から新しい発見のある音楽を届ける新番組「LOVE CONNECTION」（月～金曜 11:30～13:00）をスタートしました。平日午後ワイドには、新番組「シナプス」（月～木曜 13:00～16:00）に若年層の支持を集めるやまだひさしを起用しました。番組では、日々の世の中の関心事を独自の切り口で捉えていくと同時に、母親と子供が共に音声放送の楽しさを体験しながら子供のイマジネーションを育てる「朗読」企画や、社会的課題である「農業」への意識醸成を図る新企画も投入しました。また、平日夜の時間帯では、時事問題を気鋭のコメンテイターが深掘りしていく報道番組「TIME LINE」（月～木曜 19:00～19:30）、音楽ダウンロード世代に贈る音楽シーン先取りの新番組「RADIO DRAGON」（月～木曜 19:30～21:55）など、多彩な新番組をスタートしました。また、既存番組においても、平日午前帯ワイド番組「BLUE OCEAN」（月～金曜 8:30～11:00）や「ディア・フ

レンズ」（月～金曜 11:00～11:30）で、時事的興味・知的好奇心に訴える内容に企画・ゲスト選定を変更するなど、改編の目的「新しい発見と共感性」を多くの番組に浸透させる企画強化を行いました。

また、開局 40 周年特別番組としては、4 月 26 日の開局記念日を中心にスペシャルウィークを設け、40 年の足跡を YMO、松任谷由実、山下達郎など大物アーティスト達がナビゲートしながら、当社番組において作り上げた過去の貴重なライブ音源を聴く企画や、20 年間にわたり展開してきたステーション･キャンペーン「アースコンシャス～地球を愛し、感じるこころ」の歩みを辿り、その中心イベント「アースデー・コンサート」やフィールド活動を振り返る企画等を展開しました。さらに、ショパン・イヤーにちなみ、世界的ピアニスト横山幸雄がショパン・ピアノソロ 166 曲の完奏に挑戦するコンサートを東京オペラシティで開催し、その模様を 16 時間にわたり完全中継。また、KING OF J-POP 桑田佳祐が 4 時間にわたるアコースティック・スタジオライブを実施するなど、当社ならではの特別企画が大きな話題を集めました。

番組連動のクロスメディア展開においては、昭和 52 年に当社が収録・放送した歴史的コンサート音源を「カラヤン・ベルリンフィル ライブ・イン・東京 1977」として CD 化し、一挙 5 枚シリーズとして発売しました。ヘルベルト･フォン･カラヤン指揮/ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団のライブによるベートーベン交響曲全曲演奏の CD 化は、ステレオ録音としては世界唯一のものとなります。

「JET STREAM」（月～金曜深夜 0:00～0:55）では、これまでに朗読されてきた堀内茂男氏による 100 篇の旅情詩を集めた書籍「JET STREAM 旅への誘い詩集」の出版を行い、「エフエム芸術道場」（土曜深夜 3:00～4:00）では、パーソナリティで世界的クリエイター村上隆氏のデザインによるオリジナル G-SHOCK の限定発売を実現しました。その他、前述の桑田佳祐 4 時間アコースティック・スタジオライブの携帯配信なども含め、人気番組に連動した様々な商品開発を実現しました。

デジタル時代に向けた「マルチメディア放送」に関して、総務省は「ラジオと地域情報メディアの今後に関する研究会」を平成 22 年 2 月に発足し、「地方ブロック向けマルチメディア放送」のサービス展開の方向性と可能性の検討が行われました。同研究会により平成 22 年 7 月にまとめられた報告書には、「音声放送優先セグメントの設置」や「既存放送事業者以外の第3極によるサービスの実施」などが盛り込まれました。こうした動きの中、当社はじめ JFN 系列の民放 FM 局、及び株式会社ジャパンエフエムネットワーク（持分法適用関連会社）は、委託放送事業者（ソフト事業者）としての参入を目指し、平成 21 年 10 月に地域ブロック毎に委託放送事業企画会社 6 社を設立。その後既存放送事業者以外の新規参入企業からの資本参加を受け、マルチメディア放送でのサービス開発に着手しております。また、平成 21 年 3 月に免許が交付された福岡ユビキタス特区においては、自治体・新規参入企業と共に、市内路線バスや博多－釜山間の高速船に設置されたデジタルサイネージに向けた乗客の利便性に寄与する動画・静止画コンテンツ送信、インターネット上のパケットデータを放送波に載せて送る IPDC 技術の実験等を開始し、3 セグメント放送に

よる具体的サービスを見据えた活動を展開しております。今後は、総務省情報通信審議会によって放送方式が決定し、その後事業者公募を経て、平成 25 年秋に放送が開始される見込みとなっており、当社グループでは地方ブロック向けマルチメディア放送の委託放送事業免許の取得を目指してまいります。

〈企画・制作事業活動〉

企画・制作事業においては、40 周年記念イベントとして、今世紀最高のテノール歌手とも評されるアンドレア・ボチェッリの武道館コンサートを４月に開催。５月には前述の「横山幸雄ショパン・プロジェクト」を実施、７月には 270 年の歴史を持つ名門オペラハウス トリノ王立歌劇場による初来日公演を東京文化会館で実現しました。さらに９月には番組「JET STREAM」のコンセプトである“音楽と朗読で世界を旅する”をステージに再現するコンサート、「JET STREAM ～Music Around The World～」を Bunkamura オーチャードホールで開催。現在“機長”をつとめる俳優の大沢たかおナビゲートのもと、異国情緒あふれる音楽で観客を「JET STREAM」の世界に誘いました。これら 40 周年記念イベントは、今年度前半の音楽シーンを象徴するイベントとなりました。

４月 22 日の「アースデー・コンサート」では、欧米でも評価の高い東京スカパラダイスオーケストラ、アイドルグループ AKB48、シンガーソングライター山崎まさよし等、世代やジャンルを超えたアーティストが参加。コンサートの模様を世界 36 ヵ国に向けて５ヵ国語で放送し、「アースコンシャス ～地球を愛し、感じるこころ」の理念を発信しました。当社が掲げるもうひとつの理念「ヒューマンコンシャス ～生命を愛し、つながる心」の活動のひとつ「Hellosmile PROJECT（子宮頸がん啓発キャンペーン）」では、厚生労働省の後援や日本医師会など多くの医療関係団体の賛同を得て、ライブ活動や物販を通した啓蒙活動を行いました。

番組「SCHOOL OF LOCK!」発の 10 代限定の“音楽の甲子園”「閃光ライオット」は、３回目を迎えた今回、出場エントリー総数１万組、来場者１万２千人に達し、過去の出場者が続々とデビューを果たす中、音楽業界が注目するイベントとして定着しました。

その他、GLAY、安室奈美恵、今井美樹、浜崎あゆみ、松田聖子、山下達郎、氷室京介、大塚愛、LADY GAGA 等、国内外の人気アーティストのコンサートを主催し、エンタテイメント界に数多くの話題を提供しました。

〈インフォメーションプロバイダー事業活動〉

当社連結子会社ジグノシステムジャパン株式会社では、主力事業である携帯電話向けモバイルコンテンツ事業（B to C）において、アート系・ゴシック系など、人気のきせかえサイトのメニューの多様化を図ると共に、女性をターゲットにしたゲームサイトの開発に注力いたしました。また、従来の携帯電話向けサイトに加えて、スマートフォンを含む携帯電話上のオープンプラットフォーム向けコンテンツ及びアプリケーションの開発を進

め、新たな収益源の開拓を目指しました。

ソリューション事業（B to B）におきましては、携帯電話向けサービスの実績を活かし他企業のモバイルサイト開発の受託案件増加に注力すると共に、クラウドコンピューティング時代に向けたストレージサービス「みんなのポケット」による収益増大を図りました。

〈その他の事業活動〉

その他の事業活動として、オフィスビル JFN センター、メディアセンター等の賃貸事業、及び直営店舗によるレストラン事業等を展開いたしました。

以上

前年同期比較中間損益計算書（連結）

平成22年４月１日～平成22年９月30日

（単位：千円）

勘定科目	平成23年３月期中間期 (H22.4.1～H22.9.30)	平成22年３月期中間期 (H21.4.1～H21.9.30)	前年同期比
売上高	8,797,408	10,468,530	84.0%
売上原価	5,662,774	7,035,407	80.5%
売上総利益	3,134,633	3,433,122	91.3%
販売費及び一般管理費	2,902,411	2,979,224	97.4%
（内 のれん償却額）	46,772	51,438	90.9%
営業利益	232,222	453,898	51.2%
（売上高営業利益率）	2.6%	4.3%	
営業外収益	80,056	75,397	106.2%
営業外費用	88,990	104,764	84.9%
経常利益	223,288	424,531	52.6%
（売上高経常利益率）	2.5%	4.1%	
特別利益	31,956	90,113	35.5%
特別損失	30,365	44,846	67.7%
税金等調整前中間純利益	224,879	469,799	47.9%
法人税、住民税及び事業税	8,985	43,044	20.9%
法人税等調整額	△ 56,421	6,855	—
少数株主損益調整前中間純利益	272,315	419,899	64.9%
少数株主利益	3,578	△ 4,648	—
中間純利益	268,736	424,548	63.3%

前年同期比較　中間損益計算書（単体）

平成22年４月１日～平成22年９月30日

（単位：千円）

勘定科目	平成23年３月期中間期 (H22.4.1～H22.9.30)	平成22年３月期中間期 (H21.4.1～H21.9.30)	前年同期比
売上高	6,203,841	6,763,698	91.7%
売上原価	4,097,345	4,424,563	92.6%
売上総利益	2,106,496	2,339,135	90.1%
販売費及び一般管理費	1,958,995	1,967,732	99.6%
営業利益	147,501	371,403	39.7%
(売上高営業利益率)	2.4%	5.5%	
営業外収益	86,304	44,394	194.4%
営業外費用	68,024	77,186	88.1%
経常利益	165,781	338,610	49.0%
(売上高経常利益率)	2.7%	5.0%	
特別利益	31,193	45,956	67.9%
特別損失	22,524	33,509	67.2%
税引前中間純利益	174,451	351,057	49.7%
法人税、住民税及び事業税	2,570	2,570	100.0%
法人税等調整額	△ 59,436	23,271	－
中間純利益	231,318	325,215	71.1%

(注)金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

前年同期比較　売上高内訳書(単体)

平成22年４月１日～平成22年９月30日

(単位:千円)

勘定科目	平成23年３月期中間期 (H22.4.1～H22.9.30)	平成22年３月期中間期 (H21.4.1～H21.9.30)	前年同期比
売上高	6,203,841	6,763,698	91.7%
放送事業収入	5,572,986	5,858,721	95.1%
放送収入	3,856,178	4,011,674	96.1%
タイム放送料	2,804,866	2,942,682	95.3%
スポット放送料	1,051,311	1,068,992	98.3%
制作収入	931,117	951,215	97.9%
その他	785,691	895,832	87.7%
企画事業収入	302,781	540,973	56.0%
賃貸事業収入	273,813	282,791	96.8%
その他事業収入	54,259	81,211	66.8%

(注)金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

46 期(上期)広告会社取り扱い順位

＜総合順位＞

46 期	45 期	広告会社
1	1	電通
2	2	博報堂DYメディアパートナーズ
3	4	アサツー ディ・ケイ
4	3	ビデオプロモーション
5	16	東急エージェンシー
6	6	京橋エイジェンシー
7	7	三晃社
8	8	読売エージェンシー
9	11	コスモ・コミュニケーションズ
10	15	オフィスフラッグス

＜タイム＞

46 期	45 期	広告会社
1	1	電通
2	2	博報堂DYメディアパートナーズ
3	6	アサツー ディ・ケイ
4	3	ビデオプロモーション
5	12	東急エージェンシー
6	5	読売エージェンシー
7	8	コスモ・コミュニケーションズ
8	4	オリコム
9	13	オフィスフラッグス
10	11	第一通信社

＜スポット＞

46 期	45 期	広告会社
1	1	電通
2	2	博報堂DYメディアパートナーズ
3	4	京橋エイジェンシー
4	3	三晃社
5	7	放送文化事業
6	6	アサツー ディ・ケイ
7	9	ビデオプロモーション
8	8	毎日廣告社
9	13	東急エージェンシー
10	－	メディア・ゲート・ジャパン

平成23年３月期　中間決算短信

平成22年11月30日

会社名　　株式会社　エフエム東京
ＵＲＬ http://www.tfm.co.jp
代　　表　　者　（役職名）　代表取締役社長　（氏名）　冨木田　道臣
問合せ先責任者　（役職名）　執行役員総務局長　（氏名）　小林　哲　　ＴＥＬ(03)3221-0080
配当支払開始予定日　　平成22年12月10日

（百万円未満切捨て）

１．23年３月期中間期の連結業績（平成22年４月１日～平成22年９月30日）

（１）連結経営成績　　（%表示は対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
23年３月期中間期	8,797	△ 16.0	232	△ 48.8	223	△ 47.4	268	△ 36.7
22年３月期中間期	10,468	△ 10.9	453	75.8	424	65.2	424	907.7

	１株当たり中間純利益		潜在株式調整後1株当たり中間純利益	
	円	銭	円	銭
23年３月期中間期	299	94	――	
22年３月期中間期	473	85	――	

（参考）持分法投資損益　23年３月期中間期　31 百万円
22年３月期中間期　13 百万円

（２）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産	
	百万円	百万円	%	円	銭
23年３月期中間期	36,968	23,906	64.1	26,462	72
22年３月期	37,420	23,935	63.3	26,417	89

（参考）自己資本　23年３月期中間期　23,709百万円　22年３月期　23,669百万円

2．配当の状況

	１株当たり配当金		
（基準日）	中間期末	期末	年間
	円　銭	円　銭	円　銭
22年３月期	30 00	45 00	75 00
23年３月期	30 00	――	60 00
23年３月期（予想）	――	30 00	

（注）22年３月期　期末配当金の内訳　普通配当　30円00銭　　開局40周年記念特別配当　15円00銭

3．その他

(1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）　有

(2) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

①　会計基準等の改正に伴う変更　有

②　①以外の変更　無

(3) 発行済株式数（普通株式）

①　期末発行済株式数（自己株式を含む）　23年３月期中間期　900,000株　22年３月期　900,000株

②　期末自己株式数　23年３月期中間期　4,045株　22年３月期　4,045株

③　期中平均株式数　23年３月期中間期　895,955株　22年３月期中間期　895,955株

平成23年３月期 中間決算の概要

（参考）個別業績の概要

（単位：百万円未満切捨）

23年３月期中間期の個別業績（平成22年４月１日～平成22年９月30日）

（１）個別経営成績　（%表示は対前年同期増減率）

	売　上　高		営 業 利 益		経 常 利 益		中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
23年３月期中間期	6,203	△8.3	147	△60.3	165	△51.0	231	△28.9
22年３月期中間期	6,763	△11.5	371	△14.1	338	△31.2	325	41.8

	１株当たり中間純利益		潜在株式調整後1株当たり中間純利益	
	円	銭	円	銭
23年３月期中間期	257	02	――	
22年３月期中間期	361	35	――	

（２）個別財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産	
	百万円	百万円	%	円	銭
23年３月期中間期	35,938	24,672	68.7	27,414	25
22年３月期	36,109	24,670	68.3	27,411	75